

放課後デイの  
 日常活動紹介  
 松本 悦子



当センターでは、平成25年4月より、放課後等デイサービス事業を行っています。就学児童の放課後や土曜日、夏休みなどの長期休業期間に充実した時間を過ごせるよう支援することを目的としています。夏休み期間中は、利用人数を拡大し、1グループ7〜8名程度で、2つに分け受け入れを行いました。同年代の子どもを互いに意識できる場となるような環境づくりを心がけました。傍で職員と他の子どもがやりとりをする声や様子が見聴きできることや同世代の子どもが真剣に何かに取り組んでいる姿を感じられ

るよう個々の視線や姿勢に配慮しました。

日々の活動内容は個々の年齢や状況、興味関心を持てることに合わせ行います。新しい経験の中で音色の移り変わりやことばの響きのおもしろさ、物の形や色が変わっていく様子に気づけるような活動を考えています。

Aさん(横地分類A1)は、語りかけの中に、擬音語のよくなおもしろいことばがあると気づき、よく聴いています。また、掌に触れるようにセロファンや紙を丸めるとじつと音を聴き、掌に受ける感触を感じるように動きを止めます。『おおきなかぶ』の語りのリズムに合わせた感覚の変化を感じられるようにしました。「〜が〜をひっぱって」という短いことばの繰り返しその後で「うんとこしょ、どっこいしょ」という掛け声に合わせ両手を優しく揺らすと表情が和らぎます。その後も同じように繰り返ししていくと次第に職員の方に意識を向けるように目の動きを止め、集中して聴いていました。次に来る「うんとこしょ、どっこいしょ」ということばと優しく揺れる感覚を期待し、待つていくようでした。

Bさん(横地分類B4)は、



土を丸めることや指で押しつぶすように粘土に触れていることもありました。形が完成していくにつれて粘土に触れている時間も長くなり、粘土の感触や形が変わっていく様子に興味を示していました。

幼児の成長発達  
 について  
 鳥居 衿花

カラーシートを頭の上でゆっくりと上下させると両手を上げ、カラーシートが近づき自分の体に触れる瞬間を期待しています。また、職員と他の子どもが歌いかけに合わせて楽器を鳴らしていると傍に来て、体を揺らし、歌に合わせてるように楽器を鳴らしてリズムをとります。周りで行うことをよく見ていて、おもしろさを感じるとやりたい気持ちになるようです。職員が粘土を丸めたり並べたりしていると、いつもよりも慎重に手を伸ばし、そっと粘土に触れました。粘土に触れるとはっきりとした表情をして、すぐに粘土から手を離します。その後も、触れたい気持ちがあるようで、職員が粘土で形を作っていく工程にじつと視線を向けます。時折、職員の動きを真似て粘

あおばで行われている知育園「めばえ」に、うららから

Aさん(4歳 横地分類A2)とBさん(4歳 横地分類A1)の2名が通っています。部屋に子供達と職員が集まると、はじまりのあいさつをします。Aさんは通い始めた当初から、職員と他の子のやり取りやあいさつの声が聞こえると足をパタパタと動かし、始まりを期待しているようでした。「朝のうた」の前奏が始まると、手足の動きが止まりじつと聞き始めました。そして、歌いかけを聞いて、ここにことリズムを打つように自分の膝をたたいていました。今度は「あなたのお名前は」を歌いかけながら、一人一人順番に名前を呼んでいきます。すると、周りの子へ歌いかけている声にじつと意識を向けていました。Aさんの



順番がきて、歌いかけられるとにこっと笑い、嬉しそうな表情になりました。周りの子への歌いかけと、自分への歌いかけの違いを感じ、自分の順番が来るのを待つていたようでした。歌のあとは、絵本の語りかけを聞き、月ごとに決まっている紙遊びやボール遊び、積み木遊びなどいろいろな遊びをしています。紙遊びでは、Aさんは最初は紙をたいたたり握ったりすることを繰り返していました。そこで紙を掴みやすいようにAさんの手元に近づけました。Aさんが紙を握り、職員が反対側から引つ張るように紙を動かすと、びりびりっと破れました。破れたことが面白かったようで、それからは手元に紙を近づけるたびに握って引つ張って破るようになりました。